

GIS NEWS LETTER

地理情報システム学会ニューズレター 第90号

発行日 ● 2014年6月25日
発行 ● 地理情報システム学会

目次

会長就任にあたって	1p	委員会報告	7p
第23回研究発表大会のお知らせ	2p	支部報告	7p
代議員(社員)総会・理事会報告	4p	学会後援行事等のお知らせ	7p
2013年年度決算・2014年度予算報告	5p	事務局からのお知らせ	7p

会長就任にあたって

地理情報システム学会会長

矢野桂司（立命館大学）

5月31日に開催されました第8回社員総会で理事に選任され、理事会のご推挙により会長を務めることになりました。2012年からの2年間、浅見泰司前会長と厳網林事務局長とともに、副会長として学会運営に参画してまいりましたが、改めてその職責の重さを認識して、引き続き本学会の運営と発展に尽力していきたいと思っております。

1991年11月に設立した地理情報システム学会は、当初、318名（賛助会員28社）でスタートしました（1992年1月14日時点、会報2号より）。そして本学会は、2014年5月末現在、1,256名（名誉会員6名、正会員1,146名、学生会員104名、賛助会員65社）の会員を擁する、日本唯一の地理情報システム（GIS）と地理情報科学に関する学会であります。その目的は、「地理情報システムに関わる、あらゆる理論的・応用的研究を行い、議論し、発展させていくこと」です。

GISは現実空間を紙の中に押し込めてきた紙地図を、1980年代後半にデジタル地図に変換し、現実空間をデジタル化して、デジタル空間として再構築してきました。

そして現在、それらは双方向性をもったインターネット空間に解放されてきたといえます。多様でかつ膨大な地理空間情報（ジオ・ビッグデータ）を対象としたGISや地理情報科学を、空間的思考を活用しながら、産学官連携で今後さらに発展させていくとともに、GISの新しい役割を求めていくことが本学会の責務と考えます。

2009年の一般社団法人化以降の本学会の基本方針に即しながら、当面は、第8回社員総会で報告された「2014年度事業計画及び予算について」に基づいて、国際化の推進、機関誌「GIS—理論と応用」の着実な運営、分科会・地方支部の活性化、社会へのGISの普及・啓発活動の推進などを行ってまいります。

国際化の推進では、1990年代末から継続してきた学術大会時の韓国GIS学会（KAGIS）との共同開催（日本と韓国で交互に開催）を発展させ、他国からの参加を増やすような工夫を考えたいと思います。また、国内外で開催されるGIS・地理情報科学に関連した国際会議にも積極的に参画していきたいと考えます。



矢野 桂司 学会会長



次に、機関誌「GIS—理論と応用」の着実な運営に関しては、この2年間編集委員会を任されましたが、投稿から2か月間での査読結果の返信を目標としてまいりました。機関誌の充実が、学術大会の運営と同様に、会員サービスの中心と考え、これからも査読システムの効率化を図ってまいります。さらに、原著論文はもちろん、本学会に特徴的な、データ論文やソフトウェア論文の投稿数を増やしていきたいと考えています。

また、分科会・地方支部の活性化については、これまで学会からの少ない予算措置にも関わらず、各分科会・地方支部ともにアクティブに活動いただけていますが、学術大会でのセッション開催や機関誌へ投稿を進めていただき、ニューズレター、Web や SNS を活用いただき、活動をさらに推進いただければと思います。GIS や地理情報科学の多様化に対応して、新たな分科会の立ち上げも支援していきたいと思っています。

最後に、社会へのGISの普及・啓蒙活動の推進に関しては、GIS資格制度の運用を継続的に行うとともに、GIS関連団体・企業と連携しながら、各種研究会やシンポジウムに共催・協賛・後援し、学会としても、GISセミナーやGISイブニングトークなどを開催していきたいと思っています。また、現在、日本学術会議で議論されている、初等中等教育・大学教育における地理教育やGIS教育の高度化を支援していきます。さらに、設立15周年を迎えた東京大学空間情報科学研究センターや、国内外のGIS関連機関との連携を通して、学校教育におけるGISの活用だけでなく、社会全般でのGISの利用・活用を推進していきたいと思っています。

2016年に本学会は設立25周年を迎えます。25周年記念行事に向けて今年からその準備に取り掛かりたいと思います。伊藤滋初代会長以来、伊理正夫、野上道男、岡部篤行、高阪宏行、碓井照子、山村悦夫、村山祐司、柴崎亮介、吉川眞、浅見泰司（敬称略）と23年間引き継がれたタスキを受けて、これからの2年間、本学会のさらなる発展のために努力する所存であります。会員の皆様におかれましても、学会活動を改善していくために、積極的なご意見をお寄せいただき、本学会へのさらなるご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



社員総会の様子

第23回研究発表大会のお知らせ

第23回地理情報システム学会研究発表大会は、2014年11月7・8日（金・土）、中部大学春日井キャンパスにて開催されます。本年度も通常の研究発表（講演、ポスターセッション）に加え、多彩なセッション企画（シンポジウム、ワークショップ、ハンズオンセッション、チュートリアルセッション、GIS技術紹介セッションなど）などのプログラムを予定しております。奮ってお申し込み下さい。

1. セッション企画

シンポジウム、ワークショップ、ハンズオンセッション、チュートリアルセッション、GIS技術紹介セッションなど、特に形式は問いません。1セッション（約1時間50分）を単位とし、複数セッションにまたがることも可能です。

セッション企画につきましては、個人会員・賛助会員の方々からご提案いただけます。特に各分科会の方々につきましては、日常の研究成果を発表するまたとない機会ですので、積極的なご参加をお願いいたします。

■ 応募資格

下記のメールを、7月15日（火）までに貞広大会実行委員長（E-mail: sada@csis.u-tokyo.ac.jp）宛、お送り下さい。

- セッション題名
- セッションの種類（シンポジウム、ワークショップ、ハンズオンセッションなど）
- セッション企画者（代表者のみ）氏名、所属、メールアドレス
- セッション概要（400字程度）
- セッション枠数
- 必要機材（パーソナルコンピュータなど）
- 座席数

発表の可否は、7月31日（木）までに直接メールにてご連絡致します。なお、会場の設備等により、ご希望に添えない場合がございますので、予めご了承下さい。

2. 研究発表

講演発表とポスターセッション発表があります（梗概集はCD-ROM版のみの発行です）。

講演発表：論文の提出が必要です。論文は、地理情報システムに関する理論研究・応用研究の成果で、原則として未発表のものに限ります。また、独創性・完結性がないものの発表は認めません。

ポスターセッション発表：研究形成段階の討論や調査・活動報告などでも結構です。自由で活発な情報交換の場として活用ください。論文の提出は必須ではありませんが、提出された原稿はCD-ROMに収録されます。

講演発表、ポスターセッション発表共に、商業宣伝的な内容のものは認めません。機器展示あるいはGIS製品・利用例紹介セッションにお申し込み下さい。

■ 応募資格

- どなたでも発表できます。但し、発表者または共同研究者（連名者）のうち、少なくとも1名は学会の個人会員（正会員または学生会員）である必要があります。また、賛助会員については、1口につき個人会員1名分の発表資格を有するものとみなします。発表者となるのは、賛助会員枠を含めても1名につき1題に限ります。但し以下のような場合には、発表の重複が認められます。
 - 複数の発表について共同研究者（連名者）となること。
 - 同一題目で講演とポスターセッションの両方で発表を行うこと。
 - 通常セッションと、国際シンポジウム等の特別セッションの両方で発表を行うこと。大会発表会場において指定された日時に発表できること。
- 発表日時の指定は受け付けません。また、会場の都合により発表総数を制限する場合があります。
- 会員は2014年度までの年会費完納者に限る。

■ 発表申し込み手続き

1. アブストラクトの提出

7月1日（火）～7月15日（火）正午（必着）の期間内に、以下からお申込みください。

<https://www.easychair.org/account/signin.cgi?conf=gisa2014>

※利用方法については、大会HPに説明書を挙げてあります。

※記入された氏名と論題が、そのままニューズレター及び大会HPのプログラムとCD-ROMに掲載されます。7月16日以降の修正は一切受け付けませんので、予めご了承下さい。

- 発表の可否は、7月31日（木）までに学会HPに掲載されるプログラム（予定案）及びアブストラクトにてご確認下さい。個別のご連絡は行いませんのでご注意下さい。

2. 講演論文集用原稿の提出

【Easy Chair 宛に提出】

7月1日（火）～8月31日（日）正午（必着）※

※8月30・31日（土・日）、学会事務局は休みです。パソコントラブル等で原稿が提出できない事態が生じても対応できません。余裕をもってご提出ください。

(1) 発表論文原稿（PDF）

作成要領については、HP掲載のテンプレートファイルをご活用下さい。

【学会事務局宛に郵送】

7月1日（火）～8月31日（日）当日消印有効

(1) 上記の発表論文原稿を打ち出したもの 1部

（セッション司会者に事前送付するため）

(2) 著作権譲渡契約書（直筆の署名が必要）

（HP掲載の書式をご覧下さい）

- CD-ROM 作成の日程都合上、上記受付期間より遅れて到着した原稿は一切受け付けられません。発表申請を取り消させていただきますので、予めご了承下さい。

MS-Word などを用いて作成した原稿のPDF化に関してはHPを参考にご覧ください。フリーソフトも紹介されています。なお、PDFの品質は、そのまま印刷に耐えるレベルのものをお願いいたします。

- 使用言語は日本語または英語とします。
- 原稿の仕上がりサイズはA4版4枚とします。
- 発表者に連絡がつきにくい可能性がある場合は、申込書に確実な連絡先も明記してください。原稿の不備等で連絡を差し上げる場合があります。
- 発表原稿の編集・出版の権利は、地理情報システム学会に帰属します。

■ 大会参加費（講演論文集のCD-ROM代金を含む）

正会員または賛助会員枠の参加者：

事前登録 4,000 円（当日受付 6,000 円）

学生会員：事前登録 3,000 円（当日受付 4,000 円）

非会員（一般および大学生以上）：

事前登録 7,000 円（当日受付 8,000 円）

高校生以下、70歳以上：

無料（年齢を証明するものをご呈示下さい）

懇親会参加費 事前登録 6,000 円（当日受付 7,000 円）

- 事前登録、当日受付とも、領収書を発行いたします。事前登録には、請求書の発行ができません。
- 大会が中止された場合に限り、講演論文集の代金を引いた金額を返金します。それ以外はいかなる事由があろうと返金には応じられません。

事前登録について：

大会HPの「事前登録申込書」に必要事項をご記入の上、代金を振り込んで学会事務局まで申込書をFAXにてご送信下さい。なお本年度は、金・土両日とも、学内の食堂が営業しております。

予約および入金締切は、10月20日（月）です。

※期日までに入金が確認されない場合、事前受付はキャンセルとなります。

3. International Symposium on GIS

大会初日（予定）に、第16回国際シンポジウムがあります。（隔年で本年は日本開催）応募要領は「2. 研究発表」と同じですが、論文および発表は英語に限りません。 また、発表者が他のセッションの発表者と重複しても構いません。

国内開催の貴重な国際シンポジウムの場合として、この機会に積極的に海外の研究者との交流をお持ちください。

4. 第10回大会優秀発表賞

学生会員の発表レベルの向上を図る目的で、本年度も「大会優秀発表賞」を設けます。以下の条件を満たす方が対象となります。

- 本学会の学生会員であること（2014年7月15日までに事務局に入会届が到着した方を含みます。但し、2014年度までの年会費完納者）
- 修士号未修得であること
- 講演発表の発表者であること

受賞候補者は、研究（論文）内容、発表技術の優秀者からセッション司会者が推薦し、学会賞委員会の中に設置される大会発表賞小委員会の議論を経て受賞者を決定します。受賞者

数は特に定めません。尚、発表受賞者には、賞状を後日送付すると同時に、GISA ニュースレター92 号に所属・氏名を発表します。

5. 第3回ポスターセッション賞

ポスターセッションの質疑応答などの活性化をはかるため、今年度も学会賞を設けます。審査方法等の詳細については後日、メールニュースやWeb 上でお知らせします。

6. 機器展示募集のご案内

展示内容：パソコンまたはワークステーション上で稼動するGIS のデモソフトとします。

応募資格：学会賛助会員に限ります。出展費用は無料です。

応募要領：以下の内容を明記の上、E-mail にて事務局にお送りください。

- 会社名（所属）
- 連絡先電話番号、E-mail
- 担当者名
- 展示ソフト名称
- 展示概要（200 字程度。ニュースレターや会場配布のパンフレット及び大会 HP に掲載します）
- 必要電源の個数

受付期間：7 月 1 日（火）～8 月 31 日（日）

※展示概要はニュースレター91 号および大会 HP に掲載します。

出展の可否：9 月 30 日（火）までに機器展示要項と共にE-mail で通知します。

※ 会場の都合により、各日の展示件数及び、1 社当たりの機器構成（電気容量）について事務局が調整することがあります。

代議員（社員）総会・理事会報告

■ 2013 年度総会報告 [事務局長 巖網林]

一般社団法人地理情報システム学会第8回社員総会が、2014 年 5 月 31 日 14 時 30 分から、東京大学工学部 14 号館 143 号室において開催されました。本年度の社員総数 44 名の内、24 名が出席し、11 名が議決権行使署名を提出したことから、本総会は定足数を満たして成立した。

今年の総会は、2 年に一度の新旧役員交代の年となることから、前半と後半に分け、その間に新しい体制を決定するための理事会をはさむ形で行われた。

前半は浅見 会長の司会により行われ、まず以下の 5 つの議題を審議した。

議案 1：2013 年度事業報告について

巖 事務局長が 2013 年度に実施した事業について説明した。討議の後、満場一致で監査結果は承認された。

議案 2：2013 年度決算と会計監査について

小口 財務担当理事が 2013 年度の財務諸表などについて説明した。引き続き大佛 監事が監査内容について説明した。討議の後、満場一致で監査結果は承

認された。

議案 3：定款・会員資格基準・会員規約について

寺木 総務担当理事が現行の会員に関する規約などの構成を検討した結果を説明した。主たる問題として、規定の改廃の手続きは整合していないこと、重複していること、退会・資格喪失の条項が不整合であること、会員の権利と義務に関する定義ならびに学生会員に関する規定が不明確なことを指摘した。そのために定款・会員資格基準・会員規約を整理し、整合性を図った。新旧対応表を比較・討議した後、満場一致で定款・会員資格基準・会員規約の改定案は承認された。

議案 4：理事及び監事の任期満了による退任について

議長が理事及び監事の任期満了による退任について配付資料に基づき説明した。討議の後、満場一致で退任は承認された。

議案 5：理事及び監事の選任について

議長が 1 月に実施された選挙に基づき提案された理事及び監事の選任について配付資料に基づき説明した。討議の後、満場一致で提案は承認された。なお、被選任者は、いずれもその就任を承諾した。

以上で、前半の審議を終え、休憩に入った。その休憩の間に第 34 回理事会が開催され、新役員体制が話し合われた。この新体制については、本号理事会報告に記載する。

16 時 00 分ごろ、理事会で新会長に選出された矢野桂司 理事の司会で社員総会が再開された。まず新体制が紹介された。副会長として玉川 理事、事務局長として巖 理事が選任されたことを報告した。引き続き、以下の報告があった。

報告 1：2014 年度事業計画及び予算について

巖 事務局長が 2014 年度事業計画について配付資料に基づき報告した。また小口 前財務担当理事が 2014 年度予算案について報告した。

以上で、本日予定の審議が終了した。会場から特別な意見がなく、17 時 00 分ごろ、矢野 会長が社員総会の閉会を宣した。

■一般社団法人地理情報システム学会第 33 回理事会 [事務局長 巖網林]

開催日時：平成 26 年 5 月 31 日 13 時 00 分～14 時 30 分

開催場所：東京大学工学部 14 号館 142 号室

出席者：理事 9 名、監事 2 名（次期理事：山本、奥貫、大場）

欠席者：柴崎理事

議事概要：

議案 1：2013 年度事業報告について

巖 事務局長が配布資料をもとに 2013 年度事業報告についての説明した。審議の結果、満場一致で承認された。

議案 2：2013 年度決算と会計監査について

小口 財務担当理事が配布資料をもとに 2013 年度決算と会計監査について説明した。引き続き大佛 監事が監査結果を報告した。審議の結果、満場一致で承認された。

議案 3：定款・会員資格基準・会員規約について

寺木 総務担当理事が現行の会員に関する規約などの構成を検討した結果を説明した。主たる問題として、規定の改廃の手続きは整合していないこと、

GISA-NL No.90 (2014/6/25)

重複していること、退会・資格喪失の条項が不整合であること、会員の権利と義務に関する定義ならびに学生会員に関する規定が不明確なことを指摘した。そのために定款・会員資格基準・会員規約を整理し、整合性を図った。新旧対応表を比較・討議した後、満場一致で定款・会員資格基準・会員規約の改定案は承認された。

報告事項：

報告 1：執務状況の報告

小口 財務担当理事が今年度の財務会計状況を報告した。

太田 資格担当理事が GISCA の認定状況を報告した。
玉川 渉外・大会担当理事が渉外関連・次年度大会を報告した。2014 年度学術大会は 11 月 7 日（金）－8 日（土）中部大学で行われる。

小荒井 支部・分科会担当理事から報告があった。
報告 2：入退会費未納会員リストについて

厳 事務局長が入退会費未納会員リストに関する報告をした。

報告 3：関連イベント、協力要請について

浅見 会長が日本学術会議関連イベント、協力要請について報告をした。新体制で対応を検討してもらうことにした。

予定されていた議事をすべて終了し、議長が 14 時 30 分に本理事会の閉会を宣した。

企画・渉外担当	小荒井 衛 理事
広報・大会担当	大場 享 理事
支部・分科会担当	山本佳世子 理事
学会賞・教育担当	小口 高 理事
資格担当	太田 守重 理事

議案 3：2014 年度事業計画及び予算案について

厳 事務局長が 2014 年度事業計画、玉川 財務担当理事が 2014 年度予算を決定したい旨を述べ、配付資料に基づき 2014 年度事業計画書(案)及び予算案(収支)について説明した。討議の後、満場一致をもって 2014 年度事業計画及び予算を承認した。

報告事項：

報告 1：2014 年度の各委員会について

会長が 2014 年度の各委員会の委員長および委員について決定した旨を報告した。

報告 2：G 空間 EXP02014 について

矢野 会長が 2014 年 11 月 13～14 日に G 空間 EXP02014 が未来科学館で開催されること、本学会が幹事学会としてシンポジウムと展示を企画していること、企画委員会と学会事務局がその対応に当たること、を報告した。

予定されていた議事をすべて終了し、議長が 16 時 00 分に本理事会の閉会を宣した。

2013 年度決算・2014 年度予算報告

【前財務担当理事 小口 高】

2013 年度の決算は 4,974 千円の黒字となりました。この背景には、会費の値上げ、および手弁当で学会運営を支えていただいた多くの方々のご協力がありますが、一方で 2013 年度限りの特殊な事情もあります。2013 年 8 月に開催された京都国際地理学会議に向けて、当学会から同会議の組織委員会に寄付をしてまいりましたが、会議の会計が良好だったという事情で、寄付金が戻ってまいりました。また、2012 年度から 2013 年度にかけて、経験達成度（GIS に関する実務経験）に基づく既得権申請により GIS 専門技術者の認定を受けることが可能から不可になるという変更があり、これにともない生じた多数の申請があったことに起因する登録費の収入もありました。これらを除くと、黒字は 1,000 千円程度になります。これは従来の GISA の黒字よりも、かなり少ないといえます。会員数が頭打ちになっていることもあり、予断を許さない状況になってきたといえます。

2014 年度の予算は、基本的には昨年度までと同様の構成になっておりますが、若干の変更も行われています。これらは昨年度の実績にあわせて変更したものが多く、たとえば刊行物収入は昨年度には予算よりも多く、委員会や分科会の支出は予算より少なかったことを反映させています。

学会の基盤となる学会費収入につきましては、自動引き落とし制度を導入するなど安定化を試みておりますが、引き落としの対象となる口座の残額不足や、振込用紙を用いた支払いが大幅に遅れるといった状況も生じております。会員の方々のご協力が不可欠ですので、よろしくお願い申し上げます。また、予算を有効に活用し、学会の魅力をさらに高めるような具体的なお提案があれば、ぜひ学会にお寄せ下さい。

■一般社団法人地理情報システム学会第 34 回理事会 【事務局長 厳網林】

開催日時：平成 26 年 5 月 31 日 15 時 30 分～16 時 00 分

開催場所：東京大学工学部 14 号館 142 号室

出席者：理事 10 名、監事 2 名

定刻 15 時 30 分に、出席理事の互選により玉川英則 理事が議長に選出され、開会を宣言した。理事全員が出席だったので、本理事会が適法に成立した旨を告げた。

議事概要：

議案 1：会長及び副会長の選任について

以下の者が会長および副会長に推挙され満場一致で可決した。なお被選任者はその選任を承諾した。

会長	矢野 桂司 理事
副会長	玉川 英則 理事

ここで、議長を選出された矢野 会長に交代した。

議案 2：事務局長および担当理事の選任について

議長が事務局長を選任したい旨を述べ、その選任方法を諮った。出席理事から次の者を事務局長に推挙する発言があったので賛否を問うたところ、満場一致でこれを可決した。なお被選任者はその選任を承諾した。

事務局長 厳 網林 理事

討議 1

議長が理事の担当を決定したい旨を述べた。討議の後、次のように役割分担を決定した。なお担当理事選任者は全員その就任を承諾した。

総務担当	大佛 俊泰 理事
財務担当	玉川 英則 理事・副会長
編集担当	奥貫 圭一 理事

GISA-NL No.90 (2014/6/25)

収支予算書(収支)

2014年 4月 1日から2015年 3月31日まで

一般会計		(単位:千円)		
科 目	予算額	前年度予算額	増 減	
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
会 費 収 入	14,023	14,176	-153	
正 学 生 会 員 費	10,545	10,526	19	
大 会 参 加 費 収 入	428	590	-162	
正 学 生 会 員 費	3,050	3,060	-10	
大 会 参 加 費 収 入	1,370	1,300	70	
正 学 生 会 員 費	450	400	50	
大 会 参 加 費 収 入	120	100	20	
正 学 生 会 員 費	300	300	0	
大 会 参 加 費 収 入	500	500	0	
正 学 生 会 員 費	1,670	1,460	210	
大 会 参 加 費 収 入	1,000	800	200	
正 学 生 会 員 費	600	600	0	
大 会 参 加 費 収 入	70	60	10	
正 学 生 会 員 費	450	800	-350	
大 会 参 加 費 収 入	150	200	-50	
正 学 生 会 員 費	100	300	-200	
大 会 参 加 費 収 入	200	300	-100	
正 学 生 会 員 費	80	50	30	
大 会 参 加 費 収 入	80	50	30	
正 学 生 会 員 費	80	50	30	
大 会 参 加 費 収 入	17,593	17,786	-193	
2. 事業活動支出				
大 会 開 催 費 支 出	1,200	1,000	200	
臨 時 雇 賃 金 支 出	250	300	-50	
大 会 開 催 費 支 出	280	70	210	
臨 時 雇 賃 金 支 出	20	30	-10	
大 会 開 催 費 支 出	100	100	0	
臨 時 雇 賃 金 支 出	100	0	100	
大 会 開 催 費 支 出	450	500	-50	
臨 時 雇 賃 金 支 出	2,540	2,500	40	
大 会 開 催 費 支 出	430	400	30	
臨 時 雇 賃 金 支 出	1,930	1,900	30	
大 会 開 催 費 支 出	180	200	-20	
臨 時 雇 賃 金 支 出	270	300	-30	
大 会 開 催 費 支 出	0	50	-50	
臨 時 雇 賃 金 支 出	50	50	0	
大 会 開 催 費 支 出	50	50	0	
臨 時 雇 賃 金 支 出	80	50	30	
大 会 開 催 費 支 出	10	50	-40	
臨 時 雇 賃 金 支 出	1,806	2,306	-500	
大 会 開 催 費 支 出	50	50	0	
臨 時 雇 賃 金 支 出	200	200	0	
大 会 開 催 費 支 出	120	120	0	
臨 時 雇 賃 金 支 出	1,436	1,936	-500	
大 会 開 催 費 支 出	200	300	-100	
臨 時 雇 賃 金 支 出	200	300	-100	
大 会 開 催 費 支 出	50	250	-200	
臨 時 雇 賃 金 支 出	11,290	10,929	361	
大 会 開 催 費 支 出	4,550	4,500	50	
臨 時 雇 賃 金 支 出	1,250	1,300	-50	
大 会 開 催 費 支 出	750	750	0	
臨 時 雇 賃 金 支 出	640	500	140	
大 会 開 催 費 支 出	1,250	1,200	50	
臨 時 雇 賃 金 支 出	500	400	100	
大 会 開 催 費 支 出	50	50	0	
臨 時 雇 賃 金 支 出	1,700	1,659	41	
大 会 開 催 費 支 出	80	80	0	
臨 時 雇 賃 金 支 出	10	10	0	
大 会 開 催 費 支 出	100	100	0	
臨 時 雇 賃 金 支 出	410	380	30	
大 会 開 催 費 支 出	765	735	30	
臨 時 雇 賃 金 支 出	70	70	0	
大 会 開 催 費 支 出	80	80	0	
臨 時 雇 賃 金 支 出	5	20	-15	
大 会 開 催 費 支 出	70	15	55	
臨 時 雇 賃 金 支 出	110	120	-10	
大 会 開 催 費 支 出	90	80	10	
臨 時 雇 賃 金 支 出	100	100	0	
大 会 開 催 費 支 出	100	100	0	
臨 時 雇 賃 金 支 出	140	150	-10	
大 会 開 催 費 支 出	18,121	18,320	-199	
臨 時 雇 賃 金 支 出	-529	-535	6	
事業活動収支差額				
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
当期収支差額	-529	-535	6	
前期繰越収支差額 ①	43,668	29,142	14,526	
次期繰越収支差額 ②	43,140	28,607	14,532	

① 13年度の収支計算書の次期繰越収支差額

② ①+13年度実績の当期収支差額

正味財産増減計算書

2013年 4月 1日から2014年 3月31日まで

一般会計		(単位:千円)		
科 目	当年度	前年度	増 減	
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
特 定 資 産 運 用 益	3	3	0	
特 定 資 産 受 取 利 息	3	3	0	
受 取 入 金	0	400	-400	
受 取 入 金	0	400	-400	
受 取 入 金	15,087	15,820	-733	
正 学 生 会 員 受 取 会 費	11,437	11,853	-416	
正 学 生 会 員 受 取 会 費	540	657	-117	
正 学 生 会 員 受 取 会 費	3,110	3,310	-200	
過 年 度 受 取 会 費	67	7	60	
大 会 参 加 費	0	1,591	-1,591	
正 学 生 会 員 費	0	442	-442	
正 学 生 会 員 費	0	85	-85	
正 学 生 会 員 費	0	396	-396	
大 会 参 加 費	0	668	-668	
刊 行 物 制 作 費	2,002	2,338	-256	
機 関 誌 (G I S 一 理 論 と 応 用) 収 益	1,309	1,203	107	
大 会 講 演 文 集 (大 会 誌) 収 益	408	706	-299	
受 取 刊 行 物 送 料	75	49	26	
資 格 ・ 教 育 認 定 事 業 収 益	290	380	-90	
資 格 ・ 教 育 認 定 事 業 収 益	2,012	4,735	-2,723	
資 格 ・ 教 育 認 定 事 業 収 益	120	2,650	-2,530	
資 格 ・ 教 育 認 定 事 業 収 益	1,890	1,815	75	
資 格 ・ 教 育 認 定 事 業 収 益	0	270	-270	
資 格 ・ 教 育 認 定 事 業 収 益	2	0	2	
資 格 ・ 教 育 認 定 事 業 収 益	0	67	-67	
資 格 ・ 教 育 認 定 事 業 収 益	0	67	-67	
資 格 ・ 教 育 認 定 事 業 収 益	90	0	90	
資 格 ・ 教 育 認 定 事 業 収 益	90	0	90	
資 格 ・ 教 育 認 定 事 業 収 益	2,100	200	1,900	
資 格 ・ 教 育 認 定 事 業 収 益	2,100	0	2,100	
資 格 ・ 教 育 認 定 事 業 収 益	89	155	-66	
資 格 ・ 教 育 認 定 事 業 収 益	1	0	1	
資 格 ・ 教 育 認 定 事 業 収 益	88	154	-66	
資 格 ・ 教 育 認 定 事 業 収 益	21,530	25,317	-3,787	
(2) 経常費用				
大 会 開 催 費	86	1,510	-1,424	
大 会 開 催 費	0	271	-271	
大 会 開 催 費	0	104	-104	
大 会 開 催 費	18	17	1	
大 会 開 催 費	68	389	-320	
大 会 開 催 費	0	125	-125	
大 会 開 催 費	0	5	-5	
大 会 開 催 費	0	600	-600	
大 会 開 催 費	2,164	2,311	-147	
大 会 開 催 費	423	426	-3	
大 会 開 催 費	1,576	1,720	-144	
大 会 開 催 費	165	165	0	
大 会 開 催 費	40	60	-20	
大 会 開 催 費	40	50	-10	
大 会 開 催 費	0	10	-10	
大 会 開 催 費	1,854	872	982	
大 会 開 催 費	21	35	-14	
大 会 開 催 費	134	131	3	
大 会 開 催 費	42	0	42	
大 会 開 催 費	1,657	707	950	
大 会 開 催 費	151	315	-164	
大 会 開 催 費	151	314	-163	
大 会 開 催 費	0	1	-1	
大 会 開 催 費	90	0	90	
大 会 開 催 費	59	0	59	
大 会 開 催 費	30	0	30	
大 会 開 催 費	1	0	1	
大 会 開 催 費	250	250	0	
大 会 開 催 費	11,400	12,306	-906	
大 会 開 催 費	4,344	5,490	-1,146	
大 会 開 催 費	1,042	1,158	-116	
大 会 開 催 費	629	618	10	
大 会 開 催 費	346	462	-116	
大 会 開 催 費	1,386	1,011	375	
大 会 開 催 費	404	533	-129	
大 会 開 催 費	462	236	226	
大 会 開 催 費	47	47	0	
大 会 開 催 費	1,622	1,640	-17	
大 会 開 催 費	71	70	1	
大 会 開 催 費	10	10	0	
大 会 開 催 費	85	135	-49	
大 会 開 催 費	378	378	0	
大 会 開 催 費	573	518	55	
大 会 開 催 費	404	444	-40	
大 会 開 催 費	62	67	-6	
大 会 開 催 費	16	17	-1	
大 会 開 催 費	120	127	-7	
大 会 開 催 費	114	11	103	
大 会 開 催 費	48	54	-6	
大 会 開 催 費	45	52	-7	
大 会 開 催 費	0	117	-117	
大 会 開 催 費	16,440	18,069	-1,629	
大 会 開 催 費	5,090	7,248	-2,158	
大 会 開 催 費	0	0	0	
大 会 開 催 費	5,090	7,248	-2,158	
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
固 定 資 産 除 却 損	116	0	116	
什 器 備 品 除 却 損	116	0	116	
経常外費用計	116	0	116	
当期経常外増減額	-116	0	-116	
税引前当期一般正味財産増減額	4,974	7,248	-2,274	
当期一般正味財産増減額	4,974	7,248	-2,274	
一般正味財産期首残高	57,977	50,730	7,248	
一般正味財産期末残高	62,951	57,977	4,974	
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III 正味財産期末残高	62,951	57,977	4,974	

委員会報告

■ 学会賞委員会 [学会賞委員長 寺木 彰浩] 2014 年度学会賞の募集(既報)

毎年、秋の研究発表大会で表彰が行われる「地理情報システム学会学会賞」5 部門（研究奨励、学術論文、ソフトウェア・データ、教育、著作）の応募受付期限が、近付きました。いずれも自薦、他薦は問わず、またグループも対象となる部門もあります。

締切は、7 月 15 日（火）です。ホームページで詳細を参照の上、奮ってご応募ください。

<http://www.gisa-japan.org/awards/index.html>

支部報告

■ 中部支部 [福井 弘道] 中部支部事務局変更のお知らせ

平成 26 年度より中部支部が中部大学国際 GIS センター（センター長：福井弘道教授）に変更となりました。今年度は第 23 回研究発表大会も中部大学で開催される予定です。中部支部として、活発な活動を行って行きたいと思っております。皆様のご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。

（支部事務局より）

5th Digital Earth Summit 2014 のお知らせ

ISDE (International Society for Digital Earth) は、2014 年 11 月 9-11 の 3 日間、名古屋駅前の「ウインクあいち」を会場として第 5 回 Digital Earth Summit を開催します。

今回のテーマは、この時期に開催される ESD ユネスコ世界会議に合わせて「Digital Earth for ESD (Education for Sustainable Development)」です。

詳細な情報の提供、参加登録受付、発表登録受付を会議ウェブ・サイト (<http://isde-j.com/summit2014/>) にて行っております。また、スポンサー、展示の受付も行っております。Digital Earth の基盤技術として GIS は非常に重要です。

11 月 7-8 日に中部大学で開催される GIS 学会研究発表大会に引き続き、ご発表・参加ください。

（現地事務局：中部大学国際 GIS センターより）

学会後援行事等のお知らせ

■ 共催 「空間情報シンポジウム 2014」

主催：株式会社インフォマティクス

会期および会場：

2014 年 7 月 9 日（金）東京
2014 年 7 月 17 日（木）大阪
2014 年 7 月 23 日（水）名古屋
2014 年 7 月 25 日（金）札幌
2014 年 7 月 29 日（火）福岡
詳しくは…

http://www.informatix.co.jp/top/event_sympo2014.html

■ INQUA（国際第四紀学連合）2015 名古屋大会

大会期間：2015 年 7 月 27 日（月）～8 月 2 日（日）

会場：名古屋国際会議場

《 今後のスケジュール 》

2014 年 7 月：登録、発表、巡検の申し込み開始

2014 年 12 月 20 日（土）：口頭・ポスター発表の申込締切り

2015 年 2 月 28 日（土）：早期登録締切り

詳しくは… <http://inqua2015.jp/>

事務局からのお知らせ

『GIS-理論と応用』採用の目安

投稿から査読結果が出るまで、現在、平均して 40 日程度です。採用された論文は、直ちに学会 web のデジタルライブラリに収録され（閲覧は会員に限られます）、6 月または 12 月発行の書籍にも掲載されます。

受付は随時、みなさまの投稿をお待ちしています。

■ 変更届提出のお願い

就職、転職、所属や自宅の場所が変わった等々の場合、速やかに変更届をご提出ください。変更はオンラインで出来ます。 <https://www.gisa-japan.org/member/login.php>

■ メールニュースへの掲載ご希望の方へ

学会では個人会員を対象に、メールニュースを配信しています。

内容は学会からのお知らせ、関連イベント、公募情報が主ですが、こちらに掲載をご希望の方は、以下の「お送りいただく情報」をご参照の上、事務局までお申し込み下さい。

（ホームページ上でもご案内しております。

<http://www.gisa-japan.org/news/request.html?id=02>）

なお、ニュースの配信は、毎月第 2・第 4 金曜日を目安にしています。

<お送りいただく情報>

イベントの場合

・イベント名 ・URL ・日時（年は西暦/時間は 24 時間表記）

・会場名 ・主催

お知らせの場合

・タイトル ・URL ・内容は 200 文字程度

公募の場合

公募情報の依頼が出来るのは、賛助会員と教育関係の方だけです。

・タイトル ・概要、分野 ・機関名 ・所属

・職名 ・URL（詳細情報）

■ 会議の場所をご提供します

分科会（SIG）、委員会、支部など、学会活動に関することで会議をしたいが場所が無い…という方は、事務局までお申し出ください。事務局が入居している学会センタービルの地下に、貸会議室があります。予約制ですので、お早目にお問い合わせください。

料金：無料

時間：月曜日から金曜日の 10：00～17：00

注意：インターネットのご利用は出来ません

2014 年 5 月末現在の個人会員 1256 名、 賛助会員 65 社

賛助会員

(2 口) NTT タウンページ㈱
(1 口) アクリーグ㈱, 朝日航洋㈱, アジア航測㈱, いであ㈱, ㈱インフォマティクス, ESRI ジャパン㈱, ㈱NTTデータ数理システム, 愛媛県土地家屋調査士会, 応用技術㈱, 大阪土地家屋調査士会, オートデスク㈱, ㈱オオバ, ㈱かんこう, 関東甲信越東海GIS技術研究会, ㈱岐阜県建設研究センター, 九州GIS技術研究会, 協同組合くびき野地理空間情報センター, 近畿中部北陸GIS技術研究会, ㈱こうそく, 国際航業㈱, 国土情報開発㈱, ㈱古今書院, 寿精版印刷㈱, GIS総合研究所いばらき, ㈱GIS関西, ジェイアール西日本コンサルタンツ㈱, ㈱JPS, ㈱ジオテクノ関西, ㈱ジオプラン, ㈱昭文社, ㈱ジンテック, ㈱ゼンリン, ㈱谷澤総合鑑定所, 玉野総合コンサルタント㈱, 中四国GIS技術研究会, テクノ富貴㈱, 東北GIS技術研究会, ㈱ドーン, 内外エンジニアリング㈱, 長野県GIS協会, にいがたGIS協議会, 日本エヌ・ユー・エス㈱, 日本コンピュータシステム㈱, 日本情報経済社会推進協会, 日本スーパーマップ㈱, ㈱日本測量調査技術協会, 日本土地家屋調査士会連合会, ㈱日本地図センター, パシフィックコンサルタンツ㈱, ㈱パスコ, 東日本総合計画㈱, 北海道GIS技術研究会, ㈱マップクエスト, ㈱松本コンサルタント, 三井造船システム技研㈱, ㈱三菱総合研究所, 三菱電機㈱, ヤフー㈱, ㈱リモート・センシング技術センター
自治体会員: (1 口) 大阪府高槻市役所, 経済産業省特許庁, 総務省統計局統計研修所, 長野県環境保全研究所, 福岡県直方市

学会分科会連絡先一覧

●自治体: 浅野和仁 (大阪府富田林市) 事務局: 青木 和人 (あおきgis研究所 Tel 050-5850-3290) E-mail: kazu013057@gmail.com ●ビジネス: 高阪宏行 (日本大学 Tel 03-3304-2051) E-mail: kohsaka@chs.nihon-u.ac.jp ●防災GIS: 畑山満則 (京都大学防災研究所 Tel 0774-38-4333) E-mail: hatayama@imdr.dpri.kyoto-u.ac.jp ●土地利用・地価GIS: 碓井照子 (奈良大学) 事務局: 西端憲治 (㈱セイコム Tel 0721-25-2728) E-mail: totiriyo-sig@seicom.jp	●時空間GIS: 吉川耕司 (大阪産業大学 Tel 072-875-3001) E-mail: yoshikaw@due.osaka-sandai.ac.jp ●地図・空間表現: 若林芳樹 (首都大学東京 Tel 042-677-2601) E-mail: wakaba@tmu.ac.jp ●セキュリティSIG: 内布茂充 (行政書士 内布事務所 Tel 090-2284-4125) E-mail: spcn87q9@royal.ocn.ne.jp ●FOSS4G分科会: Venkatesh Raghavan (大阪市立大学) 連絡先: 嘉山陽一 (朝日航洋㈱ TEL049-244-4032) E-mail: youichi-kayama@aeroasahi.co.jp
---	---

地方支部の連絡先一覧

<北海道支部> 支部長: 北海道大学 橋本雄一 Tel: 011-706-4019, E-mail: you@let.hokudai.ac.jp <東北支部> 支部長: 東北大学 井上亮 Tel: 022-217-6368, E-mail: rinoue@plan.civil.tohoku.ac.jp <北陸支部> 支部長: 新潟大学 牧野秀夫 Tel: 025-262-6749, E-mail: makino@ie.niigata-u.ac.jp <中部支部> 支部長: 中部大学 福井弘道 連絡先: 杉田暁 (中部大学) Tel: 0568-51-9894 (内線 5714), E-mail: satoru@isc.chubu.ac.jp <関西支部> 支部長: 大阪工業大学 吉川眞 連絡先: 田中一成 (大阪工業大学) Tel: 06-6954-4293, E-mail: gisa@civil.oit.ac.jp	<中国支部> 支部長: 広島工業大学 岩井哲 Tel: 082-921-5486, E-mail: s.iwai.i5@it-hiroshima.ac.jp <四国支部> 支部長: 徳島大学 塚本章宏 Tel: 088-656-7616, E-mail: tsukamoto.akihiro@tokushima-u.ac.jp <九州支部> 支部長: 九州大学 三谷泰浩 Tel: 092-802-3399, E-mail: gisaku@doc.kyushu-u.ac.jp <沖縄支部> 支部長: 琉球大学 宮城隼夫 E-mail: miyagi@ie.u-ryukyu.ac.jp 連絡先: 有銘政秀 ((株) ジャスミンソフト) Tel: 098-921-1588, E-mail: arime@jasminesoft.co.jp
--	--

■ 編集後記 ■

矢野先生が新会長に就任され、今年度が本格的にスタートいたしました。ニューズレターも本号で 90 号となります。積極的な広報活動をどのように進めていくべきか、その中でニューズレターのあり方や発行時期等を再検討すべきではないか、という課題が挙がっております。会員広報誌としての在り方を含め今後議論していきたいと思えます。三原委員長、大場理事をはじめ、新たなメンバー構成で皆様にお読みいただけるような紙面づくりを心がけますので、ご協力のほど、よろしく願いいたします。また、長らくニューズレターを担当していただきました、畑山先生が担当を卒業されました。2 年間ご指導いただきましたこと、改めてお礼申し上げます。

谷口 彰 (GIS 総合研究所)

地理情報システム学会ニューズレター

第 90 号 ●発行日 2014 年 6 月 25 日

■発行

一般社団法人 地理情報システム学会

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階
TEL/FAX: 03-5689-7955 E-mail: office@gisa-japan.org
URL: <http://www.gisa-japan.org/>

■ 弥生雑記 ■

所用で鎌倉に赴いた。5 月の連休中なので覚悟はしていたが、混雑は想像以上だった。JR は通勤ラッシュより混雑している上、ダイヤが乱れている。江ノ電も入場規制がかかり、ホームに入ってから電車に乗り込むまで 2~3 本待つ状態だった。目的地に着いたときには既に疲労困憊。用事を済ませると早々に帰路についた。

無論、帰りも大変な人混みで、その中で何故か、十数年前に鎌倉に家を買わないかと持ちかけられたことを思い出した。隣家が売りに出されたのだが、次にどんな人が住まうのか不安なので知った人を買って貰いたい、という依頼だった。2 億円はとても用立てられないので断ったが、あ のとき住人になっていたら…。連休中という特殊事情であるにせよ、電車も道路も、とにかく人で一杯なのだ。住民は買い物に出るのもままならないだろう。

海と山が迫る土地は、攻めるに難く守るに易い。だからこそ幕府の拠点になったのだろうが、鎌倉はブームで終わる観光地では無い。凝らす工夫は限られるかもしれないが、もう少しスムーズに移動する手段の構築が出来たら良いな、と疲れた頭で考えた。

(学会事務局)

GISA-NL No.90 (2014/6/25)